

2011 年度コレクション展

コレクション名品選

美術の中の“わたし”

同時開催 小企画

安井仲治の位置



林 重義《夜の自画像》

開催趣旨

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館の時代より、40 年以上にわたって作品収集を行い、収蔵された作品数は 8,000 点以上に及びます。当館 1 階と 2 階の展示室で開催される「コレクション展」では、年 3 回の展示替えを行いながら、コレクションの名品をさまざまなテーマに分けて紹介しています。

このたびの「2011 年度コレクション展」では、「美術の中の“わたし”」と称し、主に近年制作された作品を中心に画家の自画像など今まであまり展示されなかった油彩画や版画、写真や彫刻などを展覧し、当館のコレクションの隠れた魅力をご紹介します。

あわせて小企画として「安井仲治の位置」を開催します。これは、日本を代表する写真家・安井仲治（やすい・なかじ 1903-1942）のポートフォリオが昨年度に当館に収蔵されたのを機に、安井が旧蔵していた当時の前衛美術雑誌などの資料とあわせて展示し、この稀有な写真家を改めて検証するものです。

当館の多彩なコレクションをお楽しみください。

会期等

2011 年 11 月 19 日（土）～2012 年 3 月 11 日（日）

休館日：毎週月曜日・12 月 31 日〔土〕 1 月 1 日〔日・祝〕 1 月 2 日〔月〕

ただし 11 月 21 日〔月〕と 1 月 9 日〔月〕は開館、1 月 10 日〔火〕は休館

開館時間：午前 10 時～午後 6 時（入場は午後 5 時 30 分まで）

特別展開催中の金・土曜日は午前 10 時～午後 8 時（入場は午後 7 時 30 分まで）

入場料

一般：500（400）300 円 / 大学生：400（320）240 円 / 高校生・65 歳以上：250（200）150 円 / 中学生以下無料

（ ）・・・20 名以上の団体料金 / ・・・特別展とのセット料金

障害のある方とその介護の方 1 名は半額（ただし 65 歳以上の割引との併用はなし）

会場

兵庫県立美術館 常設展示室（1 階・2 階）

主催

兵庫県立美術館

関連事業

- (1) 「安井仲治の位置」関連イベント 学芸員による解説会「仲治の本棚」
平成24年2月5日(日) 午後2時から午後3時30分まで
レクチャールーム(定員100名)
講師:速水 豊(当館学芸員) 小林 公(当館学芸員)
参加無料、ただし要観覧券
- (2) こどものイベント「アートであそぼ! つないでつないで組み立てる」
平成23年11月20日(日) 午前11時から午後2時まで(入退場自由)
美術館北入口屋外(雨天の場合はエントランス)
どなたでもご参加いただけます。
参加無料・申込不要
詳しくはこどものイベント係 078-262-0908 まで
- (3) 学芸員によるギャラリー・トーク
平成23年12月17日(土)
常設展示室6(小企画「安井仲治の位置」会場)
講師:小林 公(当館学芸員)
平成24年2月25日(土)
1階常設展示室
講師:相良 周作(当館学芸員)
時間はいずれも午後4時から(約45分)
いずれも参加無料、ただし要観覧券
- (4) ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー
会期中の金・土・日曜の午後1時から(約45分)
(ただし12月30・31日と1月1日は除く)
エントランスに集合
内容により要観覧券

お問い合わせ先:兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【コレクション名品選企画内容に関すること】企画担当学芸員 相良 周作

【小企画「安井仲治の位置」企画内容に関すること】企画担当学芸員 小林 公

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

【取材・写真提供に関すること】営業・広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

展示内容

1階 常設展示室1 「わたし」をさぐる - セルフ・ポートレート」(出品予定点数約 30点)

美術において「自画像」というジャンルは、画家が自分の顔を鏡越しに見つめ、それを描きとめていく、という作業を基本としています。おのずと自分自身の顔の造形にとどまらず、その心の内面にまで踏み込むかのような表現にいたる場合が多くなります。

一方でそこに描かれる自分自身を、飾り立てたり、あるいは自分とは別の人物に扮することによって、その性格にさまざまな意味づけをおこない、新たな世界を切り開くこともあります。

この展示室では当館の豊富な館蔵品の中から、有名人に扮した自画像を含むさまざまな自画像を紹介します。



ジェームズ・アンソール《骸骨としての自画像》
1889年



ジェームズ・アンソール《自画像》 1886年

常設展示室2 「わたし」のあこがれ - セレブ・ポートレート」(出品予定点数約 25点)

自画像とは別に、美術においてはモデルを描いた「肖像画」というジャンルもあります。画家がモデルを依頼したり、あるいはモデルが画家を指名して描かせたりと、こちらもさまざまな方法で数多く描かれ、表現されてきました。そこにあらわされたモデルは、自身の死後もなお残るイコン（聖なる像）としての役割をも担っています。

一方で、現代美術における肖像画では、メディアによって取り上げられたイメージをもとにして、新しい表現を獲得する場合もあります。そこにあらわれた人物像は、実在の人物と鑑賞者とが直接の接点がなくとも親しみを持たれる、別のイコンとしての役割をもたらししてくれます。

この展示室では歴史的な著名人や、現代の誰もが知っているセレブ（有名人）をモチーフにした作品を紹介します。



レイモン・デュシャン=ヴィヨン《ボードレール》
1911年

常設展示室3 「わたし」がみつめる - ある風景」(出品予定点数約 20点)

この展示室では視点を変えて、美術における別のジャンルである「風景」を見つめてみましょう。

画家が「風景画」を描く場合、そこには描く画家がその風景をどのようにとらえ、どのように表現したかが読みとれます。いわば画家が自分の属するこの世界をどのようにとらえているかのひとつのあらわれとも見なすことができます。



池田 永治《まど》 1934年

今回は、画家が風景を見つめるときのフィルターとしての「窓」をテーマにした作品をまとめてみました。窓そのものをモチーフにした作品、窓から見える風景に着目した作品など、その表現はさまざまです。

続いてその「窓」から見た風景と想定して、当館の所蔵品を展示してみました。ここには直接的な風景を表現した作品は少ないですが、それらをさまざまに展示することによって、新たな意味づけがあらわれくるのではないのでしょうか。

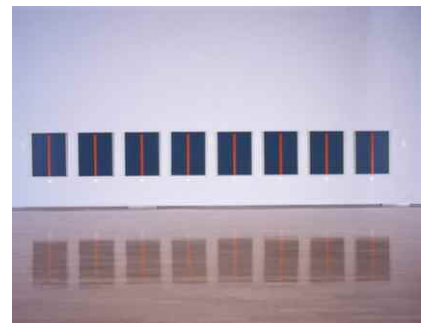


吉原 治良《窓》 1934年頃

常設展示室4 「わたし」をめぐる - 偶然・思考・消滅」(出品予定点数約 20点)

これまで見てきた“わたし”は、画家自身であったり、あるいは作品を鑑賞しているわたしたち自身であったりしました。しかしそもそも“わたし”とはどういった存在なのでしょう？

この部屋では、今まで作品をとおして見つめてきた“わたし”の概念をくつがえすような作品を取り上げました。画家自身の意図をまったく問わない作品、表現された内容をきわめて難解にされた作品、誰が描いたのかがもはや問われない作品などによって、それらの作品を鑑賞している現代のわたしたちの根本が、鋭く問いただされるのではないのでしょうか。



グループ 位 《非人称絵画》1965 / 2004年

常設展示室5 「コレクション選 - 海外の近現代彫刻」/「安藤忠雄コーナー」(出品予定点数約 10点)

当館の収集の柱のひとつである彫刻から、西洋近現代作品を展示します。また、当館の設計者である建築家・安藤忠雄の関西でのプロジェクトを模型、写真、映像などで紹介するコーナーを併設します。



オーギュスト・ロダン《オルフェウス》 1892年

2階 小磯良平記念室 / 金山平三記念室 (出品予定点数約 30点)

神戸出身のふたりの洋画の巨匠を顕彰するため、それぞれ記念室を設けて代表作を展示します。



金山 平三《溪流》 1959年

常設展示室6 小企画 「安井仲治の位置」(出品予定点数約 90点 / 会期中展示替えあり)

日本を代表する写真家・安井仲治の写真を中心に、彼が影響を受けた作家の作品などもあわせて展示します(詳細は別途プレスリリースをご参照ください)。

2011 年度コレクション展
小企画

安井仲治の位置



《蝶(二)》1938(昭和13)年/2010(平成22)年

主旨 安井仲治(1903-1942)は日本を代表する写真家として、内外から熱い注目を集める存在です。2010年にオリジナルのネガに基づくモダンプリント(一部はヴィンテージ・プリントの複写)のポートフォリオが完成し、安井に対する関心はこれからさらに高まるものと予想されます。この好機をとらえ、本展ではポートフォリオに納められた作品や当館寄託のヴィンテージ・プリントとともに、同時代の他作家の作品や安井旧蔵の国内外の雑誌・書籍といった資料類、彼に影響を与えた海外作家の作品を展示し、安井の創作の秘密に迫るものです。

会期等

2011年11月19日(土)～2012年3月11日(日)

休館日：毎週月曜日・12月31日[土] 1月1日[日・祝] 1月2日[月]

ただし11月21日[月]と1月9日[月]は開館、1月10日[火]は休館

開館時間：午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)

特別展開催中の金・土曜日は午前10時～午後8時(入場は午後7時30分まで)

会期中に展示替えを行います。

前期：平成23年11月19日(土)～平成24年1月15日(日)

後期：平成24年1月17日(火)～3月11日(日)

主催 兵庫県立美術館

会場 コレクション展示室6

関連事業 ・ 学芸員による解説会「仲治の本棚」

講師：速水 豊（当館学芸員） 小林 公（当館学芸員）

日時：平成 24 年 2 月 5 日（日）午後 2 時～午後 3 時 30 分

場所：レクチャールーム

・ 学芸員によるガイドツアー

講師：小林 公（当館学芸員）

日時：12 月 17 日（土）午後 4 時～午後 4 時 45 分

場所：常設展示室 6

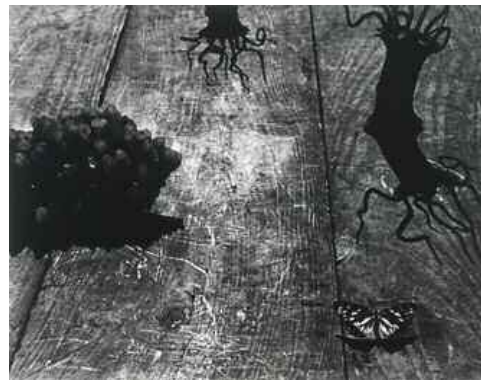
聴講無料。ただし参加にはコレクション展入場券が必要。



《凝視》1931（昭和 6）/ 2010（平成 22）年



《犬》1935（昭和 10）/ 2010（平成 22）年



《蝶》 1938（昭和 13）/ 2010（平成 22）年

お問い合わせ先：兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【小企画「安井仲治の位置」 企画内容に関すること】 企画担当学芸員 小林 公

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

コレクション名品選 美術の中の“わたし”

小企画 安井仲治の位置

営業・広報グループ 宛
FAX (078) 262 - 0903

ご希望の写真の番号に をつけてください。後日お送りいたします。また、読者・視聴者プレゼント用招待券(最大 10 組 20 名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・その他(クレジット等)
1	林 重義《夜の自画像》
2	ジェームズ・アンソール《自画像》 1886 年
3	ジェームズ・アンソール《骸骨としての自画像》1889 年
4	レイモン・デュシャン=ヴィヨン《ボードレール》 1911 年
5	池田 永治《まど》 1934 年
6	吉原 治良《窓》 1934 年頃
7	グループ 位 《非人称絵画》1965 / 2004 年
8	オーギュスト・ロダン《オルフェウス》 1892 年
9	金山 平三《溪流》 1959 年
10	安井 仲治《蝶(二)》 1938 (昭和 13) 年 / 2010 (平成 22) 年
11	安井 仲治《凝視》1931 (昭和 6) / 2010 (平成 22) 年
12	安井 仲治《犬》1935 (昭和 10) / 2010 (平成 22) 年
13	安井 仲治《蝶》 1938 (昭和 13) / 2010 (平成 22) 年

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		F A X	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
写真到着日希望			
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大 10 組 20 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組 名分希望		

写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD) などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。

本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。